



神奈川支部報

神奈川支部報 第 20 号

発行日：2022 年 1 月 1 日

発行者：込田伸夫

発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部
横浜市青葉区若草台 2-58 込田方



大室山と富士山（撮影：永井泰樹）

新年のご挨拶

神奈川支部長 込田伸夫

日本山岳会神奈川支部の皆様、新年おめでとうございます。

さて 2021 年を振り返ってみますと、神奈川支部のみならず日本全体が 2020 年と同様、新型コロナ感染に翻弄され続けた一年だったといえましょう。東京オリンピック・パラリンピックが開催された夏には、首都圏では感染者が増加の一途をたどり、神奈川県でも連日 2000 人を超す新規感染者が出る有様でした。秋口になりワクチンの接種の普及に伴って感染者は減少に転じ、最近では神奈川も 10 人程度の日もあるなど、収束に向かいつつあるかのように思われます。しかしながら、新たに感染力の強いオミクロン株の出現で予断を許さない状態が続いています。一日も早い収束を願うばかりです。

神奈川支部では緊急事態宣言等の延長により、4 月から 9 月の支部の公式山行、行事などは残念ながらすべて中止となりました。しかし 9 月 30 日の宣言解除を受けて、10 月からは公式山行、自然観察会等の実施を順次開始いたしました。また今後さまざまな企画の実施により、支部の活性化や会員同士の懇親を深めていきたいと考えております。そして今年 10 月 8 日と 9 日に、2022 年度全国支部懇談会が横浜市上郷・森の家で開催されます。全国からの会員をお迎えする大きな行事に、支部会員皆様のご協力を切にお願いする次第でございます。

最後になりましたが、新しい年が神奈川支部の皆様にとりまして、明るく楽しく充実した一年となりますことを心より祈念いたします。

丹沢周辺の渡来人の足跡（2）

和田誠一

「日本のコリアをゆく」（康熙奉）によると「七世紀半ばの朝鮮半島は北部の高句麗、南西部の百済、南東部の新羅という三国が拮抗して覇を競っていたが、その中で、中国大陆の唐と連合して勢力を伸ばしたのが新羅だった。660年、新羅・唐の連合軍は百済を滅ぼし、続いて高句麗を攻撃した。国家存亡の危機となった高句麗は、666年に日本の朝廷に援軍要請のための外交使節を派遣してきた。その中にいたのが若光だった。けれど、朝廷は動かなかった。百済滅亡の際に援軍を派遣して新羅・唐の連合軍に大敗を喫していたからである。むしろ、朝廷は自国に攻め込まれるのを極端に恐れるほどだった。668年に高句麗は滅び、帰るべき母国を失った若光はそのまま日本に残った。

（中略）その当時、朝鮮半島はようやく新羅が統一王朝を築いていたが、戦乱があまりに長く続いたために、難を逃れて日本に渡ってきた人々が多かった。渡来人たちはまだ日本にない技術や知識を持った一団であったことから、彼らを国土開発に積極的に活用しようとした」とある。

日本に留まった若光は大宝三年（703）には朝廷より従五位下、王の姓を賜り、高麗王若光として東国の開発を目指して大磯海岸に上陸する。

現在、大磯の高来神社で隔年7月に「御船祭」が行われている。この祭りは昔、高来権現の千手観音が漁夫蛸之丞によって海中から拾い上げたとの由来に基づいて行われているもので700年の

歴史があるとのこと。美しく飾りつけられた権現丸と観音丸の二艘の船型の山車が町中を巡回する。

古くは大磯浦から花水川を遡って、高麗神社で神輿を迎え船に乗せ、再び川を下って照ヶ崎海岸まで海上渡御したが、江戸時代の相次ぐ自然災害により、台車に御船を載せて陸路を巡回する方法に変更された。巡回中に謡われる木

遣・御船歌の中に高麗人渡来が歌い継がれている。



「御船祭 大磯町」

「〱 抑々権現丸の由来を悉く尋ねれば、応神天皇の十六代の御時より、俄かに海上騒がしく、浦の者共怪しみて、遙かに沖を見ておれば、唐船急ぎ八の帆を上げ、大磯の方へ棹をとり、走り寄ると見るうちに程なく汀に船はつき、浦の漁船漕ぎよせて、かの船の中よりも、翁、一人立ち出でて、櫓に登り声をあげ、汝等それにてよく聞けよ、われは日本の者にあらず、諸越の高麗国の守護なるが、邪慳な国を逃れ来て、大日本に志し、汝等帰依する者なれば、大磯浦の守護となり、子孫繁盛と守るべし。あらありがたやと拝すれば、やがて漁師の船に乗り移り、上がらせ給う。御代より乗せ奉りし船なれば、権現丸とはこれをいうなり」（大磯町文化史）

さらに大磯の海岸に上陸した高麗人の行動範囲が拡がり李沂東著の「韓来文化と其の事蹟」によれば「・・芦ノ湖の湖畔にある箱根神社は、奈良朝以前には駒ヶ岳の山頂あったもので、これを駒形権現と言った。この狛方権現は大磯の高麗山の山頂に祀られていた高麗権現を勧請したものであって、箱根山の歴史が高麗権現から出発しているのは、言うまでもなく、箱根は高麗人によって、最初の開発の鍬が下されたことを示している。奈良朝時代になって、万巻上人という奈良の高僧が箱根山に登って、天平宝字元年に駒形権現を駒ヶ岳の山頂から麓に下ろし、箱根三権現社と名付けて湖畔に祀ったのが、今の箱根神社である・・」とあり、

また箱根神社の宝物殿に保存されている国重要文化財の「箱根権現絵巻」には大磯の高麗権現と箱根権現、さらには伊豆山権現との関係の一つの物語で結び付けており、伊豆山神社の縁起にも「応神天皇2年、東夷相模国唐濱磯部の海槽に光明と音曲を放つ日輪の様な円鏡が出現し、自ら「異域神人」といい、日金の嶺に飛んだという。異域の神が相模の唐濱（大磯）に来て、日金山の嶺に高麗権現を分霊した」とある。



「重文 箱根権現絵巻（部分）」

また、ケヤキやムクノキの樹皮の違いやクサギの果実クサギの実をみて、有鹿（あるか）神社の境内に入ります。この神社には、相模の国最古の神社と言われ、ケヤキ（左上）、ムクノキ（右上）、タブノキ（左下）の大木が多く、その中に樹皮が鹿の子模様のカゴノキ（右下）にしめ縄が張ってありました。



『相模川自然観察会』

渡邊正敏

令和3年10月16日

雨が降ったり止んだりの天気でしたが、相模川自然観察会を実施しました。朝方の小田急線の事故にも拘わらず、皆さん集合時間前にはお揃いになりましたので、予定より早めに出発しました。

厚木神社にて自己紹介をし、観察会開始です。関東大震災の慰霊碑「ああ9月1日」に会釈し、相模大橋を渡り、相模川左岸に入ります。河原を歩きながら、オギとススキの違い、「ススキ（写真左）にノギ（芒：棘状の突起）あり、オギ（写真右）にノギなし」を見分けました。



有賀神社を後にし、神奈川県立三川公園に着きました。三川公園は、相模川、中津川、小鮎川の合流点に位置するためこの名が付けられました。ここからは、丹沢山塊の山々の眺望が得られるところですが、今日は生憎見えませんでした。公園の土手を進むと、普段あまりなじみのない、ハリギリとケンポナシが並んで生えていました。

国道 246 の新相模大橋をくぐり抜け、左右クズの葉が覆う土手道を進み、この辺一带はケヤキやムクノキがあまり生えておらず、現れる木は、ほとんどエノキばかりでしたが、さきほどのケンポナシが少し実を付け始めているのがありました。

予定よりやや遅れて、昼食場所の座架依橋に到着しました。小雨交じりなので、濡れた場所を避けて、橋の下の乾いた階段で昼食としました。

昼食後は、さらに北上し、春先は芝桜に覆われる土手を進むと、実を付けているアキニレの木が何本かありました。

これから先は、主に人口工作物の観察が続きます。相模川にかかる堰や磯部頭首工が見えてきます。頭首工とは、河川から灌漑用水を取り入れるための施設で、取水堰と取水口からなる工法・工作物をいいます。その近くに、相模川伏越の導水管の実物が展示してありました。伏越とは、逆サイフォン構造よって、河川の河底を通過させる工法・工作物を言います。堰付近の岩場では、ダイサギとカワウがお見合いしており、また、上空では、トビとカラスの空中戦を広げておりました。イイギリの実が赤くたわわになっているのを見て、さらに進むと、本日最後の観察ポイントの三段の滝が見えてきます。初めに旧三段の滝があり、続いて新三段の滝が現れます。この三段の滝は、鳩川から相模川への分水路が、河岸段丘を下るため、三段になっています。現在は、新三段の滝に流れがかわり、旧三段の滝の水流はほとんど見られない状況となっているため、旧三段の滝は、水量が少なく、参加者たちは、初めに目にする旧三段の滝の景観は想像外の様子でした。三段の滝から、河岸段丘の階段を上ると、相模線下溝駅への道となり、本日の観察会は終了となりました。

<コースタイム>小田急本厚木駅 9:55-厚木神社 10:05-有鹿神社 11:05-三川公園 11:25-座架依橋の下 12:40 (昼食) /13:10-磯部頭首工 14:10-三段の滝 14:30-相模線下溝駅 14:45

<参加者>永井泰樹、出江俊夫、藤川智恵子、吉澤平治、國清喜美子、細川治子、込田伸夫、大字進、関口由美子、森静子、小林英世、丸山さかえ、長谷川昌雄、渡邊正敏 以上 14 名。



↑相模川観察会

神奈川県岳連活動報告

山の日イベント『フォトロゲイニング』

令和3年8月7日

県岳連が主催する山の日イベントに参加。神奈川支部としては『フォトロゲイニング※』のコース誘導員として2名参加した。込田支部長、長島。

あいにくの天気でも中止も予想されたが、時間を1時間遅らせて実施。参加者は5組と予定の半分程度であったが、弘法山周辺でフォトロゲイニングを楽しんだ。(記:長島)



弘法山山頂付近

※フォトロゲインとは、地図に示された場所にある構築物の写真を撮影し、最後に確実に回れたかチェックするゲーム。オリエンテーリング

が地図上の位置確認が中心になることに対し、名所旧跡などがポイントとなることが多い。

県民登山『三の塔チャレンジコース』

令和3年11月7日

県岳連が主催する県民登山のイベントに役員として永井、長島の2名が参加する。大倉から三の塔登頂を目指すチャレンジコースのリーダー、サブリーダーとして行動する。毎年参加しているメンバーで、楽しかったという感想をいただいた。(記：長島)



三の塔尾根を登る

山岳古道プロジェクト報告 (第2回)

神奈川支部の山岳古道プロジェクト活動は昨年4月、足柄古道の予備踏査を行って以来コロナ禍により中断を余儀なくされてきましたが、10月に入り漸く再開できる状況になりました。足柄古道と箱根旧街道については、予備踏査のほか南足柄市役所観光課、箱根町教育委員会等を訪問して古道調査への協力依頼とヒヤリング等を行い、ルート・調査エリアをほぼ確定しました。現在は、大山をめぐる道・八菅修験道のルートの確定作業に入り、識者へのヒヤリングや資料の収集を行うとともに予備踏査に着手しています。今まで

八菅修験道30行所のうち、11月に1番(八菅神社)から5番(塩川滝)、11番、12番(白山神社)を。12月に入り、西山を守る会の荻田事務局長に案内頂き6番、7番を経て8番(経ヶ岳)、9番(華厳山)、10番(高取山)までルートの安全性、史跡などを確認しながら踏査してきました。(記：葉上)



↑足柄古道石畳

山行報告

かながわ山岳誌 Lコース

浅間山・丸山・城山

令和3年10月9日

山北駅から緩く坂を登っていくと、河村城址歴史公園の入口に到着。ここから、登り坂がキツくなっていく。登り切ると、目の前は、一面、緑の草地となった。ここが城跡(郭跡)のようだ。右手に進み、大きな河村城址石碑の前で記念撮影。その後、東側の草地を歩いていく。この公園は、東西に広く、所々に郭や堀切などの説明板が設置されている。

草地にポツンと展望台があり、そこに登ってみる。ここからは、ゴルフ場のような草地が見下ろせる他、周囲の山々(箱根方面や曾我丘陵等)が見渡せた。

さらに東に進んでいき、浅間山への道を進む。舗装路を登っていくと、浅間山頂上に到着。頂上は、樹林に覆われ、視界が広がらない。鳥居が立ち、石祠(石塔?)のようなものが祀ってあった。

浅間山を下っていき、その後、丸山へ向かう。丸山は、頂上に企業の建屋があるユニークな山

だ。山頂には、その建屋を周回できる外周道路があり、そこを進んでいく。外周道路の最高地点辺りで、左に建屋への道があるが、関係者以外立入禁止となっていた。地図上では、その建屋エリアが最高地点のようだ。我々は、この外周道路の最高地点にて丸山登頂とみなし、山北駅に戻った。

続いて、御殿場線に乗り、次の駅、谷峨で下車。目的は、城山だ。国道246号線沿いを歩いた後、舗装路を登っていく。茶畑の多い斜面を登りきると、城山頂上で、その少し手前には、「河村新城跡」の説明板が立っており、奥の頂上付近は、盛り土状態で立入禁止となっていた。説明板の前で記念撮影を実施。

帰宅後、調べてみたら、新東名工事の前に河村新城の発掘調査が行われており、その結果、盛り土のようになったという事が判明。

帰り道、新東名工事のため、大野山～城山間で4基の大型クレーンを見る。大規模な工事が進行中だ。そのうち、橋が架かるのだろう。西日が照りつける頃、再び、谷峨駅に戻ってきた。
(記：永井泰樹)



↑河村城址にて

<コースタイム> J R 御殿場線 山北駅(9:14)～(9:48)河村城址歴史公園(10:27)～(10:37)浅間山(10:47)～(11:56)丸山道路最高地点(12:06)～(12:56)山北駅(13:23)＝(電車)＝(13:27) J R 御殿場線 谷峨駅(13:32)～(14:32)城山(14:45)～(15:45)谷峨駅

<参加者>永井泰樹、田島剛、吉澤平治、國清喜美子、細川治子、稲垣哲郎、森静子、玉木美智子、高井紀栄、砂田定夫、関口由美子、藤川智恵子、丸山さかえ

かながわ山岳誌 H コース

石老山

令和3年10月23日

プレジャーフォレスト前バス停で下車し、県道517号線を進む。石老山登山口(旧)を通り過ぎ、新しい登山口から登山道に入る。急な登りが続いた後、振り返ると、景信山から陣馬山への稜線が見渡せた。さらに登り続け、大明神展望台へ到着。残念ながら、ここは、展望台という割には、周囲の木々が伸び、展望台とは言えなくなってしまったようだ。

樹林帯の中を進んでいくと、長くて急な階段が現れる。ハアハア言いながら登り終えると、斜面が緩くなり、石老山頂上に着いた。ここからは、大室山が大きい。その奥に白い富士山の姿が見える。この後、アップダウンを過ぎ、三角点のある高塚山に到着するが、周囲は植林帯で、展望は全くきかなかった。

再び、石老山に戻り、早めのランチをとった後、地図を片手に植林帯の尾根筋を下り、牧馬峠に出た。続いて、地理院地図上の破線ルートを進み、石砂山へ向かう。道迷いせず、順調に進むが、最後に石砂山への急登が待っていた。この登りの途中で、ズボンに付いたヒルを発見し、一同、登りのスピードが加速する。石砂山頂上で、早速、靴を脱いでヒルチェック。誰も被害は、なかったが、靴などにヒルを発見する。秋が深まり、気温が下がったと思っていたが、まだヒルの活動期だったことに驚く。

石砂山から石砂山西峰に立ち寄った後、城山(伏馬田城址)へ向かうが、ここも、石老山と同様、植林帯の中の階段登りが辛い。

城山は、単独峰の山となっているが、城としては、ちょっと規模が小さく感じる。また、周囲は樹林帯となっており、展望は今一つだった。

城山からは、県道 76 号線に出て、北上していく。この県道は、下り道となっていたのは、幸いだった。テクテクと歩いていき、ゴールのやまなみ温泉バス停に到着した。(記：永井泰樹)



↑石砂山にて

<コースタイム> J R 中央線 相模湖駅 (7:25) = (バス) = (7:34) プレジャーフォレスト (7:42) ~ (8:54) 大明神展望台 (9:02) ~ (9:07) 大明神山 ~ (9:55) 石老山 (10:01) ~ (10:27) 高塚山 (10:35) ~ (11:02) 石老山 (昼食) (11:23) ~ (12:24) 牧馬峠 (12:33) ~ (13:25) 石砂山 (13:44) ~ (13:56) 石砂山西峰 (13:59) ~ (15:01) 城山 (伏馬田城址) (15:15) ~ (15:45) 県道合流点 (15:49) ~ (16:32) やまなみ温泉 (17:35) = (バス) = (17:49) J R 中央線 藤野駅
<参加者> 田島剛、永井泰樹、森武昭、本村光昭、中島良行、玉木美智子

かながわ山岳誌 Lコース

宮地山・浅間山

令和3年11月13日

田代向バス停を出発し、中津川を渡る。住宅地を登っていくと、徐々に民家が減っていく。舗装路の林道から宮地山入口への登山道に入る。周囲は、明るい自然林で、歩いていて気持ちがいい。宮地山頂上に近づくと、植林帯が目立ってきた。10:59、宮地山到着。山頂標識の周辺の3/4は、植林帯で、1/4が自然林だ。だが、残念ながら展望はきかない。



↑宮地山山頂にて

宮地山からシダゴ山方面に進んだ後、寄に下っていき、寄バス停周辺で、ランチタイムとした。

ランチ後は、浅間山(567.6m 峰)に向かう。バス通りを歩き、中山入口で左折し、右手前方にゴルフ場が見えてきたところで、中山峠に到着。峠から北側に続く林道(未舗装)に入った後、途中で林道を外れ、斜面を登っていく。ここは、自然林の明るい斜面で、歩き易い。段々と傾斜がきつくなったところで、左の尾根筋に取り付く。やがて、浅間山の頂上に到着。ここも宮地山同様、樹林に囲まれ、視界は、広がらなかった。浅間山からの下りは、地理院地図上の破線ルートに沿って南下していく。自然林の斜面を下っていくと、下り終えた所で、ヤブに当たったが、無事、中山峠に辿りついた。その後は、来た道を引き返し、ゴールの寄に到着した。

(記：永井泰樹)

<コースタイム> 田代向(10:08)~(10:59)宮地山(11:11)~(11:49)寄(12:28)~(13:07)中山峠~(13:46)浅間山(567.6m 峰)(13:56)~(14:22)中山峠(14:28)~(14:54)寄

<参加者> 森武昭、稲垣哲郎、大字進、森静子、玉木美智子、関口由美子、藤川智恵子、丸山さかえ、出江俊夫、出江真弓、永井泰樹

かながわ山岳誌 Hコース

丹沢山

令和3年11月27日

三叉路から丹沢三峰、丹沢山、塔ノ岳、大倉尾根を歩くロングコース。三叉路から歩き始め

た頃は、紅葉がまだ残っており、朝日を浴びた光景が素晴らしかった。その後は、黙々と稜線を登っていく。高畑山頂上で小休止した後、金冷シでは、クサリ場が現れ、緊張する箇所を通過する。その後、振り返ったら冬枯れの木立の間から宮ヶ瀬湖が見えていることに気がつく。

やがてモミ/ツガの針葉樹が目立ってきた。ようやく本間ノ頭に近づいてきた感じだ。11:48、本間ノ頭に到着。ここでランチタイムとする。じっとしていると寒さが身にしみてくるので12:13 出発。ここからは、丹沢三峰の核心部で、アップダウンの連続となる。特に円山木ノ頭への登り/下りがきつい。そこを通過後、登りが多くなっていき、標高を稼ぐようになっていく。緩やかな登りが続くと、丹沢山頂上は近い。



↑丹沢山山頂にて

13:57、丹沢山到着。ここで、一等三角点を撮影したり、メンバーの記念撮影を行う。また、幸いにも今日は、富士山を眺めることが出来た。ここから塔ノ岳までは、右手に富士山、檜洞丸、左手には、大山や関東平野を眺めながらの縦走となる。

15:22、塔ノ岳到着。だいぶ日が傾いてきた。大倉尾根を下っていく途中、堀山の家の手前で、薄暗くなり、駒止茶屋を通過する頃は、真っ暗となっていた。後で分かったのだが、この日、一本松跡前後では、モミジの紅葉が最盛期だった。だが、我々は、全く気がつかないまま通過していた。18:33、大倉バス停に無事到着した。

(記：永井泰樹)

<コースタイム> 三叉路(7:50)～(8:48) 御殿森ノ頭(8:55)～(9:35) 高畑山(9:43)～(11:48) 本間ノ頭(12:13)～(12:40) 円山木ノ頭(12:42)～(13:04) 太礼ノ頭(13:12)～(13:57) 丹沢山

(14:16)～(14:36) 竜ヶ馬場(14:42)～(14:55) 日高～(15:22) 塔ノ岳(15:41)～(15:59) 花立～(16:40) 堀山の家(16:48)～(17:06) 駒止茶屋～(18:33) 大倉

<参加者> 田島剛、永井泰樹、本村光昭、中島良行、廣岡正敏、玉木美智子、関口由美子、藤川智恵子

かながわ山岳誌 Lコース

枳形山・高尾山

令和3年12月11日

枳形山は、川崎市の生田緑地内にある山で標高84m。一方、高尾山は、横浜市内で唯一の一等三角点のある山で標高100.4mである。今回は、この二つの山を歩いた。

小田急線向ヶ丘遊園をスタート。生田緑地長者穴口からの階段を登り、枳形山を目指す。飯室山広場を通り過ぎ、ほどなく枳形山に到着した。山頂は、平らで、立派な展望台が建っている。展望台(エレベータあり)の上からは、360度の眺めが素晴らしい。

西側には、丹沢山塊の稜線の上に富士山がチョコンと頭を出していた。また、南東方面には、武蔵小杉の高層マンション群が薄らと見え、北西側は、奥多摩の山々が眺められた。

山頂を出発し、ホテルの里を經由し、川崎市立日本民家園に入る。中に入ると茅葺屋根の民家が次々と現れる。よくこれだけ古民家を集めたものだと、その数(25)に驚く。

合掌造りの建屋の一つは、蕎麦屋となっており、早めの昼食をとった。その後は、生田緑地の西口に出て、あざみ野行きのバス停に向かう。あざみ野からすすかけ台まで中央林間行きの田園都市線で移動する。

すすかけ台から東工大すすかけ台キャンパス入口の横を通り、国道246号線を越えて、南の方へ下っていく。その後、左に東工大のビル群を見ながら東に進む。周りが住宅地から畑に変わっていく。すると、左前方に鳥居が見えた。あれが、頂上にある飯縄神社だろう。

畑の中を緩やかに登っていくと、先ほどの鳥居の前に着いた。ここが高尾山だ。鳥居のすぐそばに一等三角点を発見。やはり、一回り大きい

三角点だと分かる。ちょうど西日が差し込んで眩しい状況だったが、ここからは、大山から丹沢山方面の山並みがよく眺められた。

全員の記念撮影を実施後、来た道を引き返し、すずかけ台に到着後、解散した。(記：永井泰樹)



↑ 枳形山山頂にて

<コースタイム>小田急線向ヶ丘遊園(9:07)～(9:18)生田緑地長者穴口～(9:34)枳形山頂上(10:03)～(10:08)戸隠不動尊跡地～(10:13)ホテルの里入口～(10:43)日本民家園(12:24)～(12:30)生田緑地西口サテライト(12:47)～(13:03)専修大学入口・川崎ゴルフ場入口(13:09)=(バス)=(13:51)あざみ野(13:56)=(田園都市線)=(14:09)すずかけ台(14:13)～(14:16)東工大すずかけ台キャンパス入口～(14:33)飯縄神社(高尾山)(14:46)～(15:02)東工大すずかけ台キャンパス入口～(15:05)すずかけ台

<参加者>森武昭、柴山信夫、葉上徹郎、田島剛、大槻利行、富岡一郎、吉澤平治、國清喜美子、細川治子、稲垣哲郎、高井紀栄、関口由美子、丸山さかえ、増田達治、大字進、渡邊正敏、中島良行、永井泰樹

役員会報告

10月役員会

日 時：令和3年10月21日(木)：19:00～20:05

場 所：かながわ県民センター706 会議室

出席者：込田支部長、永井事務局長、田島、柴山、葉上、(オンライン)：森、落合、植木、渡辺、田中

委任状による出席：大槻、早川、廣岡、長島、青木

[報告事項]

- (1) 会員の異動 …… 今回無し
- (2) 案内連絡

・永井より、本部ユースクラブ主催の第4回「語りの場」の案内(10/27 19:30から)について説明があった。すでに支部会員にはメールで案内済み。

・永井より、2021年度の活動をGoogle Photoに画像を掲載するようにした旨の説明があった。

- (3) 山行報告

・10/9に山岳誌プロジェクトLコースとして、山北駅～浅間山～丸山～山北駅＝谷峨駅～城山～谷峨駅を実施した。参加者は13名。

・10/16に自然観察会(講師：渡辺正敏)を本厚木駅～厚木神社～有賀神社～三川公園～座架依橋橋脚下～磯部～磯部頭首工～三段の滝～相模線下溝駅で実施した。参加者は14名。

[審議事項]

- (1) 年間計画

追加項目なし。会議室は4月分まで確保した。

- (2) 山行計画

・10/23に山岳誌Hコースとして、相模湖駅＝(バス)プレジャーフォレスト～大明神展望台～石老山～高塚山～石老山～牧馬峠～石砂山～城山(伏馬田城跡)～伏馬田入口BS＝三ヶ木＝JR橋本駅を実施予定。留守本部は落合と渡辺。参加申し込みは6名。(資料6-5)

・11/13に山岳誌Lコースとして、新松田駅＝田代向BS～宮地山～寄～中山峠～浅間山～中山峠～県民の森入口～堀川BS＝渋沢駅を実施予定。留守本部は柴山と葉上が担当。

・11/27に山岳誌Hコースとして、本厚木駅＝宮ヶ瀬三叉路～高畑山～松小屋ノ頭～本間ノ頭～丹沢三峰～丹沢山～竜ヶ馬場～塔ノ岳～堀山の家～大倉BSを実施予定。留守本部は次回決める。

- (3) 山岳古道プロジェクトに関して

葉上と砂田より、プロジェクトの進捗状況について説明があった。地元の教育委員会などの協力が得られ、情報収集が進められている。現地調査も一部開始している。中山顧問からプロジ

エクトへの参加が表明されている。

(4) その他

・永井より、11/7に県岳連主催の県民登山のイベントにサポートの要請が来ている旨の説明があり、永井が参加することになった。

・森より、かながわ山岳誌プロジェクトの編集作業が進んだので、10/20に編集者4名でアドバイザーを依頼している節田元副会長(山と溪谷社OB)と意見交換をした旨の説明があった。

・森より、小笠原会員が経営する妙高新赤倉温泉のユアーズインを支部の前進基地として利用させていただき、四季を通して支部主催山行を実施してはとの提案があり、積極的に進めることにした。当面は、2月または3月のスキー・スノーシューハイキング、5月頃の山菜取りを兼ねた山行を計画することにした。

11月役員会

日 時：令和2年11月19日(木)19:00～20:15

場 所：かながわ県民センター706会議室
出席者：永井事務局長、田島、葉上、廣岡、長島、(オンライン)込田支部長、大槻副支部長、早川副支部長、森、落合、渡辺、監事：砂田

委任状による出席：柴山、青木

[報告事項]

(1) 本部からの入金確認

永井より、本部から266,000円の入金があったことを確認した旨の報告があった、これに関連して、今年度の予算執行に関して意見交換があった。

(2) 全国山の日協議会公式サイトに支部活動がアップ

渡辺より、10/16に実施した相模川自然観察会の様子が標記サイトにアップされた旨の報告があった。<https://yamanohi.net>

(3) 県岳連報告

永井より、11/2に開催された県岳連理事会の議事録について説明があった。主な内容は、法人化申請に向けた体制整備とスポーツライミングへの対応の2点とのこと。

(4) 山行報告

・10/23に山岳誌プロジェクトHコースとして、相模湖駅=(バス)プレジャーフォレスト～

大明神展望台～石老山～高塚山～石老山～牧馬峠～石砂山～城山(伏馬田城跡)～やまなみ温泉BS=(バス)藤野駅を実施した。参加者は6名。

・10/23に山岳誌プロジェクトLコースとして、新松田駅=田代向BS～宮地山～寄～中山峠～浅間山～中山峠～寄=新松田駅を実施した。参加者は11名。

[審議事項]

(1) 年間計画

・1月役員会は1/20(木)から1/19(水)に変更。会議室が確保できないので、オンラインのみで実施。

・5/21(土)の支部総会は予定していた会議室が確保できなかったため、対応を今後協議する。

(2) 山行計画

・11/27に山岳誌Hコースとして、本厚木駅=宮ヶ瀬三叉路～高畑山～松小屋ノ頭～本間ノ頭～丹沢三峰～丹沢山～竜ヶ馬場～塔ノ岳～堀山の家～大倉BSを実施予定。留守本部は渡辺と葉上が担当

・12/11に山岳誌Lコースとして、向ヶ丘遊園駅～栢形山～ホテルの里～日本民家園～専修大学入口BS=(バス)=あざみ野駅=電車=すずかけ台駅～高尾山～すずかけ台駅を実施予定。留守本部は込田が担当。

・12/18に山岳誌Hコースとして、箱根湯本駅=(バス)=台の茶屋～三所山～白银山～[調査1:30]～白银山～発電所前BS=(バス)=箱根湯本駅を実施予定。留守本部は次回決める。

・Hコースの今後の予定と課題について説明があった。定例日としている第4土曜日に限定せず、幹事の都合に合わせて臨機応変に実施していくことを確認した。

(3) 全国支部懇談会に関して

永井より、開催へ向けた工程表と実施体制に関する素案が示された。審議の結果、以下の点を確認した。山行コースについては、早川が下見の上、次回までに永井へ報告する。1/19の支部連絡会で概要を提示し、3月に具体案を提示できるようにする。講演会の講師に関しては山岳気象の猪熊氏に依頼する(森が担当)。実施体制は遅くとも1月役員会までに決める。

(4) 山岳古道プロジェクトに関して
葉上と砂田より、プロジェクトの進捗状況について説明があった。

(5) その他

来年のスキー・スノーシューツアーについて、廣岡に検討してもらうことにした。

12月役員会

図を日時：令和3年12月16日（木）：19:00～20:50

場所：かながわ県民センター706会議室

出席者：永井事務局長、長島、柴山、廣岡

監事：砂田

オンラインでの出席者：込田支部長、

大槻副支部長、早川副支部長、森、

落合、渡辺、植木、田島、葉上

委任状による出席：青木

[報告事項]

(1) 県民登山報告書（資料8-2）

県岳連が11/7に実施した県民登山についての報告書の紹介があった。参加者16名。当会から永井・長島が役員として参加した。

(2) 支部事業委員会アンケート

込田より、本部の支部事業委員会から送られてきたアンケート内容について説明があった。

(3) 山行報告

・11/27に山岳誌プロジェクトHコースとして、本厚木駅＝宮ヶ瀬三叉路～高畑山～松小屋ノ頭～本間ノ頭～丹沢三峰～丹沢山～竜ヶ馬場～塔ノ岳～堀山の家～大倉BSを実施した。参加者は8名。

・12/11に山岳誌プロジェクトLコースとして、向ヶ丘遊園駅～栴形山～ホテルの里～日本民家園～専修大学入口BS＝バス＝あざみ野駅＝電車＝すすかけ台駅～高尾山～すすかけ台駅を実施した。参加者は18名。

[審議事項]

(1) 年間計画

・支部総会は5/28で調整中。

(2) 山行計画

・12/18に山岳誌Hコースとして、箱根湯本駅＝（バス）＝台の茶屋～三所山～白银山～〔調査1:30〕～白银山～発電所前BS＝（バス）＝箱根湯本駅を実施予定。留守本部は渡辺と大槻が担当

・1月に山岳誌Lコースとして、松茸山・南山を予定していたが、時間的に厳しいこと

が予想されるので、1月と2月に分割し、2月には半原の東南にある富士居山などを追加して踏査することにした。

1/8に、橋本駅北口＝バス＝鳥屋BS～奥野隧道～松茸山～早戸川橋～金沢橋～宮ヶ瀬BS＝バス＝本厚木駅を実施予定。留守本部は込田と柴山が担当。

2/12に、橋本駅北口＝バス＝鳥屋ふれあいの館BS～権現平～南山～あいかわ公園～半原～大峰～向山～富士居山～三増古戦場～三増BS＝バス＝本厚木駅を実施予定。留守本部は次回決定

・1/22に山岳誌Hコースとして、本厚木駅＝車＝青根～青根分岐～八丁坂ノ分岐～榛ノ木丸～八丁坂ノ分岐～林道合流点～青根＝バス＝橋本を実施予定。留守本部は次回決定。

・1/29に大和駅を発着として野鳥観察を中心とした自然観察会を実施予定。担当は渡辺。

(3) 全国支部懇談会に関して

永井から当会主管で実施予定の全国支部懇談会のプレアナウンス版の説明があった。これに対して、開催の前提条件や正式のアナウンス時期の明記など多くの意見があり、これらを反映していくことにした。

(4) 2022 スキー・スノーシューツアー

開催日を3/5（金）～3/7（日）とした。幹事は廣岡が担当することを小笠原に支部長から伝えることにした。

(5) 山岳古道プロジェクトに関して

葉上より、11/26と12/13に実施した現地調査の内容と今後の予定についての説明があった。

(6) JAC会報 鎌倉アルプスの原稿について

早川より、原稿についての説明があった。地入れることにした。

今後の予定 役員会

- 1月19日(水) 19時～ オンラインのみ
- 2月17日(水) 19時～ 県民センター702
- 3月17日(木) 19時～ 県民センター701
- 4月21日(水) 19時～ 県民センター708
- 5月19日(木) 19時～ 県民センター708

山行計画 かながわ山岳誌プロジェクト 松茸山

- 日時: 1月8日(土)
- 場所: 松茸山(Lコース)
橋本駅=鳥屋BS~松茸山~早戸川
大橋~宮ヶ瀬BS=本厚木駅
- 担当: 森

星が山

- 日時: 1月22日(土)
- 場所: 南郷山・星が山(Hコース)
湯河原=鍛冶屋~南郷山~星が山
~天明山~星が山~鍛冶屋=湯河原
- 担当: 永井

南山

- 日時: 2月12日(土)
- 場所: 南山(Lコース)
橋本駅=鳥井原ふれあいの館~権現平~南山~半原~大峰~三増古
戦場~三増BS=本厚木
- 担当: 森

自然観察会

- 日時: 1月29日(土)
- 場所: 泉の森自然観察会(探鳥会)
大和駅~ふれあいの森~自然観察
センター~大和駅
- 担当: 渡辺

スキー・スノウシュー懇親会

- 日時: 3月4日(土)~6日(月)
- 場所: 妙高高原
スキー班: 赤倉観光スキーリゾート
スキー場、戸隠高原スキー場にて
スノウシューシューは池の平いも
りが池、戸隠高原にて
- 宿泊先: 赤倉ユアーズ・イン
- 費用: 25000円(宿泊費、送迎費、
ガイド料)
- 担当: 廣岡

各計画の詳細については、別途メールにて案内があります。

支部会員動静

- 《支部新加入》
15834 小林英世
- 《退会》
A0343 鶴田千恵
A0344 鶴田愛美

あとがき

10月に入り、ようやく緊急事態宣言が解除され、かながわ山岳誌プロジェクトが再開しました。運動不足が不安でしたが、プロジェクトHコースの丹沢山では、久々に「歩いた」という充実感を味わい、体力復活を確信しました。この調子でプロジェクト山行を完遂したいと思います。(い)

発行: 日本山岳会神奈川支部 支部長: 込田伸夫

編集者: 田島剛、永井泰樹、長島泰博、葉上徹郎

令和4年1月1日